

2025 年度 RARA 羽ばたく次世代研究者挑戦的研究プログラム 募集要項

1. RARA 羽ばたく次世代研究者挑戦的研究プログラムの目的・趣旨

立命館大学は、2030 年代の本学のあるべき姿を「R2030 立命館大学チャレンジ・デザイン」として策定し、研究活動とその実装を核とする大学として、①研究力の向上により地球規模の課題解決に繋がる新たな価値を社会に実装し続ける次世代研究大学の実現と、②卓越した研究成果を社会に実装するイノベーション・創発性人材の育成を掲げています。この目標達成に向けた具体的施策として、「立命館先進研究アカデミー」（以降、「RARA」）を設置し、大学院生を含む若手研究者から中核研究者までの研究者個人々のキャリアパスに応じた支援を進め、研究環境の抜本的な充実に取り組んでいます。これまでも、研究部では本学の優秀な博士後期課程学生や博士学位取得後の若手研究者に対して、RARA 学生フェローシッププログラムや若手研究者育成プログラムなどの様々な支援プログラムによって研究環境の充実とキャリアパスに向けたサポートを推進してきました。

今年度もこれらプログラムに加えて、新たな価値創造を目指すために将来を担う若手研究者の挑戦的な研究活動を支援すべく「RARA 羽ばたく次世代研究者挑戦的研究プログラム」の募集を行います。

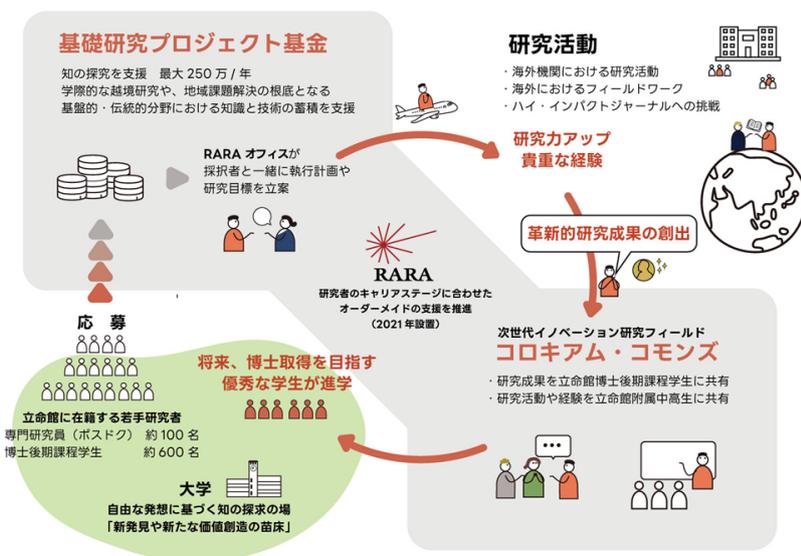
本プログラムは立命館大学に所属する全ての博士後期課程学生や専門研究員を対象とし、自身が思い描く独創的で挑戦的・野心的な研究活動に対して研究費を含めた活動支援を行うプログラムです。

海外研究機関における研究活動、世界各地でのフィールドワーク、ハイ・インパクトジャーナルへの掲載など様々な形で自らが挑戦的な目標をたて、研究に没頭し、研究者としての経験を積み重ねてもらいたいと考えています。

採択者には、RARA を基盤として、博士後期課程学生から専門研究員等に至る若手研究者が行う自由な発想に基づく知の探究活動に対し資金面から支援します。また、本プログラムの研究成果や活動経験については、研究のアウトリーチ活動としてさらに若い世代（立命館附属校の小中高生等）に伝えていただきます。

本プログラムは若手研究者を支援し、持続可能な社会の発展への貢献を目指す第一三共株式会社「はばたく次世代」応援寄付プログラム（2023 年度採択）を原資として実施、運用を行うものです。

全学から意欲的かつ挑戦的でワクワクするような研究計画が集まることを期待しています。



2. 募集内容

助成対象	若手研究者の自由で大胆な発想に基づく、挑戦的・野心的な研究計画 ※ 研究分野や研究領域は一切問いません。 ※ 応用性、実用性は必須といたしません（基礎研究も対象とします）。
助成採択規模	・博士後期課程学生（日本学術振興会特別研究員 DC1、DC2 を含む）： 2 件程度（1 件あたり最大 250 万円） ・専門研究員、日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）： 2 件程度（1 件あたり最大 250 万円）
実施期間	2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日
申請資格	・前述の実施期間中に、本大学の博士後期課程学生（博士課程後期課程、4 年制博士課程または一貫制博士課程 3 年次相当以上に在籍する学生）、専門研究員、日本学術振興会特別研究員 DC1、DC2、PD、RPD として在籍予定の者。 ※2025 年度春学期に本大学の博士後期課程に進学予定の学生のうち、後述の申請期間中に入試結果が明らかにならない者の申請も認める。 ※2025 年秋学期からの在籍予定者や、同春学期に任期満了または修了予定の者は申請資格対象外とする。 ※専門研究員、日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）については、博士の学位を取得後 8 年未満であること。但し、産前・産後休暇、育児休業等のライフイベントによる休暇期間は除く。 ※2024 年度に本プログラムの支援を受けている者は申請できない。
受給資格	・前述の実施期間中に、本学の博士後期課程学生（博士課程後期課程、4 年制博士課程または一貫制博士課程 3 年次相当以上に在籍する学生）、専門研究員、日本学術振興会特別研究員 DC1、DC2、PD、RPD として在籍する者。 ※2025 年 4 月 1 日までに本学に入学あるいは着任しなかった学生、専門研究員、学振 PD、RPD らは、本プログラムの受給資格を失うものとする。
受給義務	・研究成果や取組内容を記載したポスター（研究部様式）を作成すること。 ・学校法人立命館附属校等の生徒に向けた研究紹介・発表に協力すること。 ・本学の「コンプライアンス教育」「研究倫理教育」を受講すること。 ・研究費は、奨学寄付金に準じた取り扱いとし、学内規程に基づいて執行する。事前に「研究費執行ガイドブック」で確認を行うこと。 ・本プログラムの支援により得た研究成果を発表する場合は、助成を受けたことを表示すること。

3. 審査にあたって

(1) 審査委員会

- 1) 学内有識者で組織する審査委員会において、評価項目に基づく審査を行い、採否を決定する。
- 2) 採択結果は研究委員会に報告する。

(2) 審査基準

下記のポイントを中心に評価を行った上で、総合評価する。

- 1) 自由で大胆な発想に基づく、挑戦的・野心的な研究計画であるか。
- 2) 本研究課題に基づく成果が、学術や科学技術、社会などに対してどれほど高い意義や波及効果を有しているか。
- 3) 研究活動を遂行するための計画（到達目標、期間、対象地域・分野、方法等）が明確に記載されているか。
- 4) 記載された研究計画を進める根拠となる研究遂行能力（モチベーション、研究成果や社会経験等）があるかどうか。

4. 留意事項

- (1) 申請調書は図表を含め指定されたページ内で作成を行うこと。
- (2) 申請調書は PDF 形式で各審査委員に付される。
- (3) 申請調書受付後、申請資格要件を満たしていないことが確認された場合は、審査に付さない。
- (4) 他の機関に異動することとなった場合、異動先機関で本プログラムを活用した研究活動を続けることは出来ません。

5. 申請調書の記入にあたって

- (1) 複数の研究メンバーでの研究活動が想定される申請を行う場合、代表者が取りまとめた上で個人として申請を行い、研究計画欄にその旨を記載すること。ただし、全てのメンバーが申請資格を満たす必要がある。
- (2) 現在すでに受給している奨学金、支援制度がある場合はもれなく記載すること。

6. 助成金の使途

学内規程に基づいて研究費として執行する。（研究費の執行にあたっては本学「研究費執行ガイドブック」を熟読すること）

7. 審査結果の通知

審査結果の通知については、2025年2月下旬に応募者にメールで通知する。あわせて、採択計画は、大学ホームページへ掲載するとともに研究委員会で公表する。

8. 申請調書および個人情報の取扱い

- (1) 申請書等の提出物は審査のみに利用する。なお、提出物の返却はしない。
- (2) 申請書等より取得した個人情報は、審査以外の目的には利用しない。

9. 申請手続

- (1) 申請期間
2025年1月10日（金）～ 2025年1月31日（金）13時
- (2) 申請上の留意点
 - ・所定の申請調書に必要事項を記入し申請してください。
 - ・申請調書は PDF 化したうえでご提出ください。

(3) 提出先 URL

<https://rw.ritsumei.ac.jp/survey/guest/SVA4FD0.html?key=LNG20241212180143641916308>

(4) 問い合わせ先

RARA オフィス 担当： 菊地

外線：075-813-8560（メール：rara@st.ritsumei.ac.jp）

以上

羽ばたく次世代研究者応援寄付プログラム 概要
(第一三共株式会社)



「はばたく次世代」
応援寄付プログラム

第一三共は、当社の最大の強みであるサイエンス&テクノロジーを活かし、新しい治療ソリューションと最適なモダリティを提供することで、『世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する』存在でありたいと考えています。Society 5.0 の目指す社会においては、多様な技術革新がもたらす新たなイノベーションによって、少子高齢化、貧富の格差などの様々な課題解決を図り、一人一人が快適で活躍できる社会の実現が期待されています。こうしたイノベーションの創出には、数学、物理学、化学、生物学、医学、薬学、社会学など広範囲な分野での基礎研究の進歩・発展が不可欠です。しかしながら、日本の大学等（特に中小規模の大学等）では、文部科学省科学研究費助成事業等の公的な研究費だけでは、多様な基礎研究活動を支援する研究費は減少・不足している現状です。日本の大学等が置かれた状況に照らして、当社は、本プログラムを通じて社会・経済の変革をもたらすイノベーションの源泉となる「基礎研究」の発展を期待し、日本の基礎研究を支え、世界へはばたく次世代研究者を応援したいと考えています。

この実現に向けて、大学等の研究マネジメント組織が若手研究者を支援する「はばたく次世代」応援寄付プログラムを開始します。このプログラムで支援の対象とする分野・領域はライフサイエンスに限らず、数学、物理学、化学、社会学なども含む広範なサイエンスに関する大学等での若手基礎研究者の研究力の育成・向上を、それを支える大学のマネジメント体制の強化・整備も含めて応援してまいります。現在の事業化や社会実装にとらわれず、10年先、20年先、100年先の『世界中の人々の健康で豊かな生活』の実現に向けて、次世代を担う基礎研究者の多様なアイデアへの挑戦を通じたイノベーションの創出を期待しています。

社外有識者でのみ構成された審査委員会にて審査した結果、今年度の寄付対象を下記のとおり、決定しました。当社は本プログラムを通じて、『世界中の人々の健康で豊かな生活』の実現に向けて、次世代を担う基礎研究者の多様なアイデアへの挑戦を通じたイノベーションの創出を期待しています。

- | | | | |
|--------|--------|----------|------------------|
| ●大阪大学 | ●金沢大学 | ●京都大学 | ●高エネルギー加速器研究機構 |
| ●高知大学 | ●静岡大学 | ●電気通信大学 | ●東京医科歯科大学 |
| ●東京大学 | ●東北大学 | ●名古屋工業大学 | ●奈良先端科学技術大学院大学 |
| ●北海道大学 | ●立命館大学 | ●琉球大学 | 以上 15 施設 (50 音順) |

